

□路地コミュニティの今と昔

ひとむかし前は、家の前の路地での子どもたちの遊ぶ声、それを叱る大人の声、井戸のまわりでおしゃべりする人の声、魚や豆腐を売る人の声などたくさんの人の声、会話が聞こえていた。そういった路地、場所がいろいろな世代を超え、家族を超えた地域コミュニティ（共同体）を支えていた。

現在では、昔のように生活行為が外部にあふれることなく、個々の生活が家の中にとどまり、人と人のつながりも、うすれてしまっている。

□提案

そこに住む人が大事にしている場所や路地で「井戸端会議」のような懐かしい風景を再現する提案である。

- ①週に1度、まちのなかにバンコ（縁台）を置き、のぼりを立て、お茶や菓子を用意する。
- ②道行く人にあいさつをする。
- ③バンコに腰かけてもらって、世間話をする。

人と人をつなぐきっかけをつくり、場所場所での人材を発掘し、役割を持たせる。

たとえば

- ・語り部のおじちゃん
- ・虫博士
- ・将棋の先生
- ・折り紙師匠
- ・お手玉達人
- ・盆踊り口説き名人
- ・バンコづくりの匠 ...

住んでいる子どもから大人まで、まちを訪れる人たちもひっくるめて、いろいろなふれあいができる場所。



むかしは、道で遊ぶ子どもたち井戸のまわりでおしゃべりするお母さんたち家の前の縁台で将棋をするお父さんたち

一步、外に出ればたくさんの『まちの家族』に出会うことができました

“ながはま「縁」っ茶”は「井戸端会議」のような懐かしい風景を再現し、だれもが気軽に立ち寄れる「縁台」のような場所です

# ながはま「縁」っ茶プロジェクト



住んでいるみんなが『まちの家族』

みんなが大事にしている場所で人と人の「縁」が生まれその場所もより活性化する。



長浜町・末広町は小倉の中心市街地でありながら懐かしさ、ふるさとを感じられるまちなみがたくさん残っている古くからの漁師町です

そしてたくさんの歴史的資源昔から続く伝統文化・行事が残るまちです

